



設置目的と運営方法

コンキリエは、厚岸町の基幹産業の振興と、他産業への波及効果による地域経済の活性化を目的に町が建設し、平成6年4月にオープンしました。

集客機能を充実させ、地場産品の消費拡大と販路拡大への波及効果を狙ったもので、特に『食』と『味覚』を魅力に町の知名度を高め、まちの観光振興を誘導する役割を持った中核施設と位置付けられます。

また、道の駅として道東観光の重要なポイントにもなっており、雑誌『じゃらん』が行う『道内道の駅満足度調査』では上位にランク付けされるなど、訪れた観光客から高い評価を得ています。

コンキリエの管理運営を行うことを目的に、平成5年に創立した(株)厚岸味覚ターミナルは、その株式募集にあたり『町民一株運動』を行い、地域活性化のため多くの町民に参加を呼びかけました。



コンキリエの管理運営状況をお知らせします

現在の株主は、町内の個人47人、団体企業27社(団体)のほか、町外企業5社で、資本金六千五百万円の会社になっています。

なお厚岸町は、発行株券の53・8パーセントを保有する筆頭株主です。

(株)厚岸味覚ターミナルの代表取締役には厚岸町長が就任し、町内の団体や企業、職員などから9人の取締役と2人の監査役による役員体制となっています。なお、これら役員は無報酬で、株主への配当も創立以降行われていません。

町の委託料の内容

設置目的からコンキリエが行う事業は、飲食の提供や地場産品の販売による普及宣伝、地場産品の流通開発の研究、地域観光に関する情報の収集や提供などですが、これらの事業展開や施設の維持管理業務を、町が(株)厚岸味覚ターミナルに業務委託しており、町から支出する委託料は、次の考え方に基づき算出しています。

①事業のうち、飲食提供や物販等の営業に係る部分の経費は、利用者からの料金を充てることを基本とし、営業以外の部分に係る経費を委託料に算定。

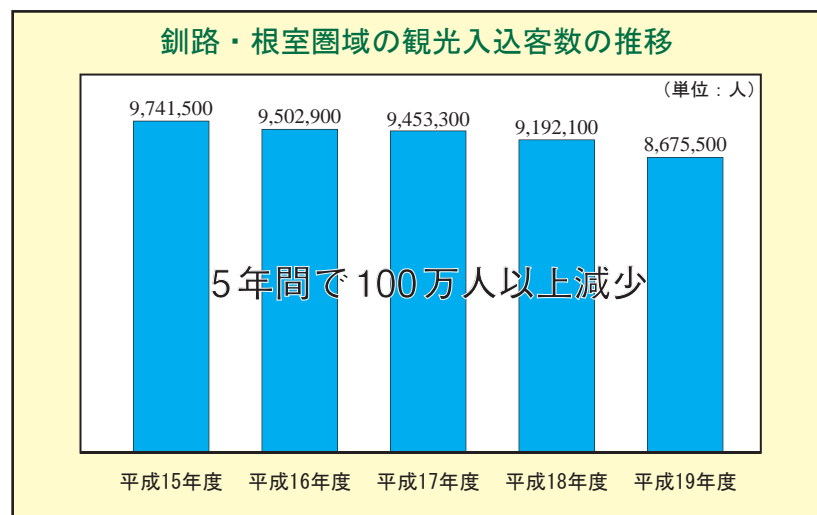
②高熱水費や設備保守など、建物全体に係る経費は、営業・非営業それぞれの面積割りで分割(ホールや廊下、エレベーターなどの共用部分は面積按分)し、委託料を算定。

③人件費については、建物の保守管理などに当たる要員一人分を委託料に算定。

④平成21年度からは、冬期間の閑散期に係る運営支援として一千万円を委託料に加える。

『厚岸味覚ターミナル・コンキリエ』(以下、コンキリエ)の運営は、第三セクターの(株)厚岸味覚ターミナルを指定管理者にして、施設全体の管理運営を行っています。近年、道東地域全体で観光客の入り込みが減少しており、コンキリエでの営業が厳しい状況になっています。(株)厚岸味覚ターミナルの経営収支は、平成16年度から赤字経営が続いていることから、厚岸町は昨年度一千万円の運営補助を行い、平成21年度においても、管理運営委託料を一千万円増額することになりました。

今月号では、このコンキリエの管理運営状況について、お知らせします。



厚岸味覚ターミナル・コンキリエと(株)厚岸味覚ターミナル

厚岸味覚ターミナル・コンキリエは、一次産品の宣伝と消費をして漁業や酪農、さらに関連産業の底上げを図り、また、町民の食文化を高め、町民の皆さんが誇りにする地域社会をつくる役割を担っており、新たな集客機能を持った観光の拠点施設として町が建設したものです。

(株)厚岸味覚ターミナルは、この『厚岸味覚ターミナル・コンキリエ』の管理運営を任されている第三セクターに分類される会社です。

第三セクターとは、公共、民間両部門の共同出資による企業の一つです。企業目的は公共への貢献であり、利潤の獲得が主眼となるものではありません。事業の公共性を維持しながら、その中で可能な限り経済性を発揮して、収支を均衡に保つこととされています。